

## 1985年のサウジアラビア、アラビア半島

著者	間 寧
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) <a href="http://www.ide.go.jp">http://www.ide.go.jp</a>
シリーズタイトル	アジア・中東動向年報
雑誌名	アジア・中東動向年報 1986年版
ページ	[627]-646
発行年	1986
出版者	アジア経済研究所
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2344/00002015">http://hdl.handle.net/2344/00002015</a>

# サウジアラビア アラビア半島諸国

## サウジアラビア王国

面積 214万9600km<sup>2</sup>  
人口 1082万人 (1984年央)  
首都 リヤド  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教 (スンニ派ワハブ)  
政体 君主制  
元首 ファハド国王  
通貨 サウジ・リヤル (SR)  
(1米ドル=3.65SR, 1985年12月末)  
会計年度 イスラム暦7月~6月  
(1985年3月23日~1986年3月11日)

## クウェート国

面積 1万7680km<sup>2</sup>  
人口 179万人 (1984年央)  
首都 クウェート  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教 (スンニ派)  
政体 立憲君主制  
元首 ジャビル首長  
通貨 クウェート・ディナール (KD) (1米ドル=0.2902KD, 1985年12月末)  
会計年度 西暦7月~6月

## アラブ首長国連邦 (UAE)

面積 8万3600km<sup>2</sup>  
人口 126万人 (1984年央推定)  
首都 アブダビ  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教 (スンニ派)  
政体 首長制  
元首 ザイド大統領  
通貨 ディルハム (Dh) (1米ドル=3.673Dh, 1985年12月末)  
会計年度 西暦1~12月

## バハレーン国

面積 674km<sup>2</sup>  
人口 40万人 (1984年央)  
首都 マナーマ  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教 (スンニ派、シーア派)  
政体 首長制  
元首 イサ首長  
通貨 バハレーン・ディナール (BD) (1米ドル=0.376BD, 1985年12月末)  
会計年度 西暦1~12月

## カタール国

面積 1万1400km<sup>2</sup>  
人口 29万人 (1984年央)  
首都 ドーハ  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教 (スンニ派ワハブ)  
政体 首長制  
元首 カリファ首長  
通貨 カタール・リヤル (QR)  
(1米ドル=3.6401QR, 1985年12月末)  
会計年度 イスラム暦7月~6月

## オマーン国

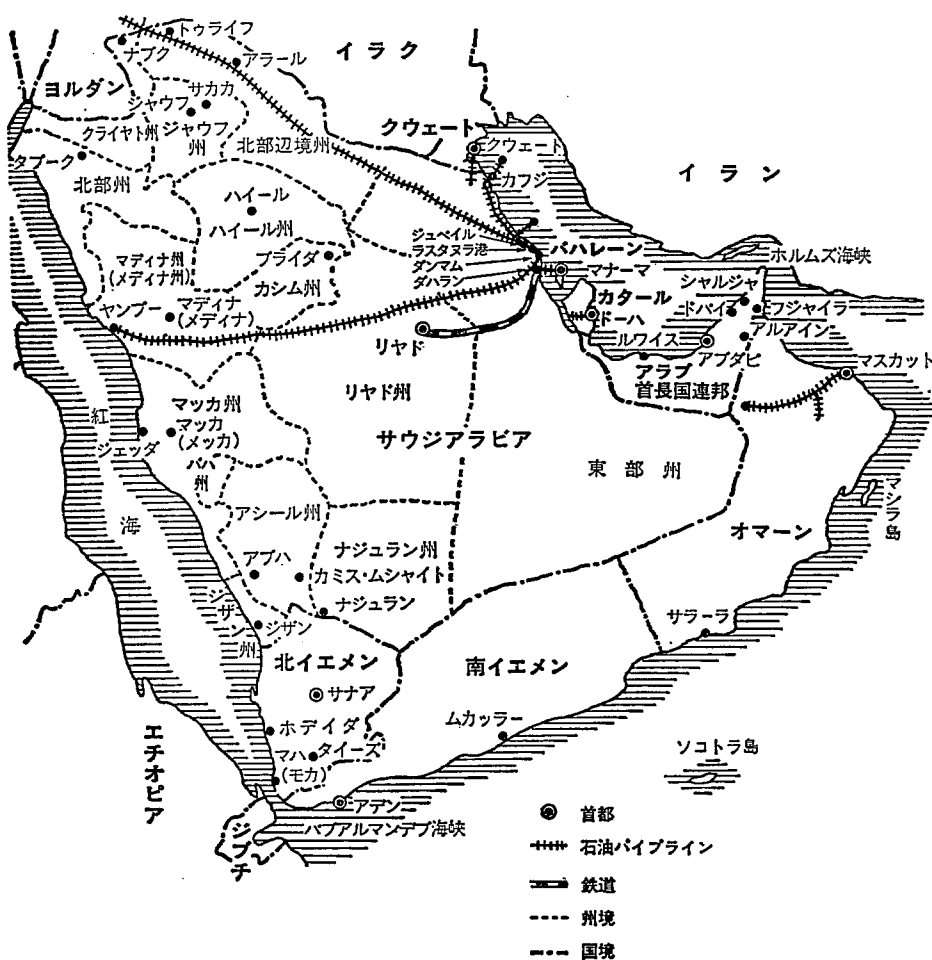
面積 30万km<sup>2</sup> (推定)  
人口 118万人 (1984年央)  
首都 マスカット  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教  
政体 君主制  
元首 カブース首長 (スルタン)  
通貨 リヤル・オマーン (RO)  
(1米ドル=0.3454RO, 1985年12月末)  
会計年度 西暦1~12月

## イエメンアラブ共和国 (北イエメン)

面積 19万5000km<sup>2</sup>  
人口 639万人 (1984年央)  
首都 サナア  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教  
政体 共和制  
元首 アリ・サレハ大統領  
通貨 イエメン・リヤル (YR)  
(1米ドル=6.990YR, 1985年12月末)  
会計年度 西暦1~12月

## イエメン人民民主共和国 (南イエメン)

面積 28万7683km<sup>2</sup>  
人口 223万人 (1984年央)  
首都 アデン  
官語 アラビア語  
宗教 イスラム教 (スンニ派)  
政体 共和制  
元首 アリ・ムハンマド最高人民会議議長  
通貨 イエメン・ディナール (YD) (1米ドル=0.3430YD, 1985年12月末)  
会計年度 西暦1~12月



# 1985年のサウジアラビア

## 原油価格維持から市場シェア拡大へ

間 寧

### はじめに■■■

1985年も引き続いた石油減産とそれに伴う石油収入の減少は、サウジアラビアの石油政策を大きく転換させた。石油生産量が夏には最盛期の4分の1にまで落ち込むと、ついにサウジアラビアは価格維持のためのスウィングプロデューサー(生産調整国)の役割を放棄した。そしてOPEC割当て上限に達する生産を開始するとともに、ネットバック方式による事実上の値下げ販売を行なったのである。

従来、石油政策の決定にあたり、サウジアラビアはOPECのリーダーとしての立場を優先した。国内の経済政策は、この産油量から生み出された石油収入を「与件」として受動的に決められていた。ところが1983年以降続けてきた海外資産取崩しの継続が債務国への転落を意味するに至り、秋以後この関係は逆転した。つまり増産により石油収入を増やすという国内的要請が、もはや無視できないものとなったため、生産調整優先から国内政策優先へと転換した。

スィングプロデューサーとして減産を続けたことの、国内的犠牲は大きかった。開発計画は縮小、延期を余儀なくされ、歳出削減政策強化への反発、政府援助の拡大要求も強まっている。国内での利益分配能力が低下したファハド体制は、国王の子息、ムハマド王子の東部州知事任命に見られるような政治的結束力を高める措置が以前にも増して必要となるであろう。

### 内 政■■■

●ファハド体制の強化 1983年以来、非王族テクノクラートとジュニア・プリンスの登用によって中央政府の要職を固めてきたファハド国王は、

その支配を国内で最重要地域である東部州でさらに強めた。3月、自らの子息、ムハマド王子を東部州知事に任命したことがそれである。東部州は油田が集中すると同時に、サウド家完全支配へ反発する勢力であるジルウィ家の影響が残存する地域であった。

ジルウィ家は、サウド家の半島統一事業への協力の代わりとして、1913年以来東部州の統治を任された。しかしその後、サウド家が中央集権化を進める過程で、同体制へ組み込まれることに対して三代にわたり反対してきた。しかし、石油の富を背景に80年代までに圧倒的力をつけた中央にとって、統治者としての能力を疑われていたアブドゥルモフセン=イブンジルウィ知事を更迭することは難しくなかった。しかも、ファハド国王の母親はスディリ家出身であり、ジルウィ家出身の母親を持つハーリド前国王と違って、ジルウィ家への気がねは少なかったと言える。同王子の任命によって、東部州では部族勢力が地方自治権を失い、中央のサウド家による掌握力がさらに強められた。

新任のムハマド王子にとって、同州人口80万人のうち半分のシーア派40万人への対策は主要課題の一つである。70年代から始まった懐柔路線が続くことは間違いない。ムハマド知事は着任早々、同州村落開発公共委員長、同州慈善協会会長を兼任して、社会福祉、公共サービスの向上にも努める姿勢を示している。また、開発プロジェクトの多くが縮小、延期、取り消されるなかで、東部州の農業、水利計画は着々と進行していることが報道されている。農業省東部州局長、水利電力省東部州局長も、ムハマド知事が兼任している。また、同知事は外国要人との接触をも行なっている。このように、同知事は東部州行政で大幅な権限を与えられ、また中央政府での役割も期待されており、サウジ政治で重要な位置を占めることになった。

●縮小するパイへの要求高まる 石油収入の減少により国内企業への政府援助が先細っているなかで、商工会議所は政府に対して国内企業の保護・優遇措置を一層声高に求め始めた。これは、たとえば3月の第2回サウジアラビア商工会議所年次総会の要求に見ることができる。それは、建設契約のすべてをサウジアラビア企業に限ること、またプロジェクトを分割して発注件数を多くすることを政府に求めた。商工会議所の要求はそれ以外にも、通貨庁(SAMA)による企業貸付の充実、自国製品での外国援助、農業補助金の継続、アラブ湾岸銀行からの融資拡大、農産品関税の引上げ等にもまで及んだ。1983年の第1回総会が外国企業との合併を求めただけであったことを考えると、国内実業家の要請は、より厳しい経済状況のもとで一層高まっていることがわかる。

縮小するパイへの要求は、いまだ政治問題化するほど先鋭化してはいない。しかし経済的負担が増加したことへの国民の不満は、年ごとにあらわになってきている。電力料金値上げや小麦買付け量削減の取りやめなども、政府に対する苦情、不満への対応としてとらえることができる。

## 経 済

●石油政策転換 1984年から続いていた石油価格引下げへの市場圧力は、まず1月OPEC総会でのアラビアンライト1 $\bar{f}$ 値下げとなって反映された。これにより公定価格はほぼ28 $\bar{f}$ の当時のスポット価格に追随したわけだが、その後両価格の差は再び開き、需要の減る夏にはスポット価格はさらに27 $\bar{f}$ 以下にまで下がった。この背景として大きかったのは、他のOPEC諸国の増産である。

この結果、生産調整国としてのサウジアラビアは、すでに300万b/d台になっていた生産水準を、5月からはさらに300万b/d以下にまで押し下げた。この水準は、国家財政収入予測に大幅な修正を迫った。8月、平均生産量は220万b/dと、自国生産割当の半分、最盛期生産量の4分の1にまで落ち込んで財政的許容限度に達した。

これを境としてサウジは増産に転じ、ネットバック価格販売方式(石油製品市場価格に連動させた原油価格の決定方式)を取り入れて販売量を拡大し、

割当生産量435万b/dを回復するに至った。

増販に伴う最大の問題は、市場価格の低下である。サウジはこの影響を最小限に喰い止めようと当初ネットバック販売を、大手石油会社であるメジャーを対象に、長期契約でしかもスポット市場へ転売しないという条件で行なった。しかしこの自制措置も長くは続かなかった。第4四半期からは欧米の非メジャー系石油会社ともネットバック契約を結んだ。一方12月のOPEC総会は市場シェア防衛を決議した。1986年1月に入ってサウジアラビアがネットバックの対象を極東にまで広げ、しかも取引対象を限定しなくなって、価格維持努力は完全に放棄された。

●海外資産の減少と均衡予算 1984/85年度(4月～3月)予算の執行にあたり、政府は歳出を予算の22%切り詰めることによって、2年連続の財政赤字を抑え込もうとした。しかし歳入実績も予算を18%下回ったため、財政赤字は当初見込みとほぼ同じ水準の460億SR(1ドル=3.53SR)となった。

このためSAMAの海外資産は取り崩しが進み、1982年のピーク時の1410億 $\bar{f}$ から85年8月には1080億 $\bar{f}$ に減少した。これ以上の海外資産の減少を喰い止めるため、政府は1985/86年度は3年ぶりの均衡予算を編成した。同予算は石油収入の減少を見込んで前年度比23%減の2000億SRに縮小された。しかし、実際の産油量が予算編成の前提である385万b/dを年平均で50万b/d以上も下回っているため、1985/86年度も前年度同様の400億SR程度の財政赤字は必至と予想される。

国際収支を見ると、1984/85年度の経常収支赤字は240億 $\bar{f}$ であり、85/86年には260億 $\bar{f}$ が見込まれている。このため1983～85年度末までの経常収支赤字の累積額は650億 $\bar{f}$ になるとウォートン研究所では推測している。この額はサウジアラビアの海外資産のうち対外借款供与額などを除いた流動的資産の総額とほぼ等しく、これ以上経常収支赤字が続けば対外借入れを余儀なくされよう。

●歳出削減策の行き詰まり 1982年以来の歳出切詰め策の最初の対象となってきた開発プロジェクト支出は、85年もブライダとシュカイクの両製油所建設計画の取消し、リヤド発電所建設の中止

などの形で続けられている。しかし、度重なる政府プロジェクトの中止、支払い遅延は、建設企業に不信感を与えている。プロジェクト応札企業の数は著しく減少し、1社あるいはゼロといった場合も現われている。

他方政府は1984年からの一般会計支出削減も強化しようと試みた。しかしそれに対する国内的反発から、これ以上の切詰めには踏み切ることはできず、かえって1984年の措置の見直しを迫られた。特に問題となったのは、電力料金と小麦買付け量である。

1984年の電力料金値上げの対象は月1000kW以上の大口使用者であった。1985年の11月になって現行の料金に対する不満が公けにされると政府は翌月、電力料金を値上げ以前の料金に戻したのであった。小麦生産は自給可能量に達し、1985年は170万ト、過剰在庫を生み出すまでになっていた。とはいえ、それが国際価格の5倍の買上げ価格により政府の財政負担となっていることは第4次5カ年計画書でも認められている。この農業補助金支出の削減のため、政府は1984年の買上げ価格引下げに続き、1985年は買付け量の制限を通達した。しかしこの通達の報道直後、政府は同報道を否定し、例年どおりの買付け量を約束した。同じ時期に国王と農業相との間で「農民の問題」が検討されていることは、この問題の重要性を示している。

財政赤字と同様に政府の主要関心事となっていたのは拡大する国際収支の経常収支赤字である。政府は国内消費を削減するとともに外貨流出をくいとめるため、外国人の締め出しを強化した。従来、肉体労働者や、サービス業労働者は、単身での滞在を強いられていた。しかし、政府は、外国人の滞在条件をさらに厳しくし、外国人一般労働者のスポンサー変更の禁止を定めた。これにより、契約期限の切れた外国人は当然帰国を余儀なくされた。また、この規定で例外扱いとなる外国人も、商業資格か、教育・技術資格の保持者に限られており、排除の対象は、専門レベルのかなり上の外国人にまで及んでいる。

もちろん本国人による経済の効率的運営は、政

府が究極的に目指すところである。しかし、第4次5カ年計画(1985~90年)の言う、5年間で全外国人の23%(60万人)の削減は、それにとって代わるサウジ人労働力が育つ速度を明らかに上回っている。現在急速化している「サウジ化」の背景には、「サウジ化」の本来の目的のみならず、歳出削減・外貨流出阻止を狙う政府の短期的意図が存在している。

●第4次5カ年計画 政府は3月、第4次5カ年計画を発表した。これを第3次計画と比べると、同国の経済開発における二つの変化が読みとれる。まず項目別支出額の変化を見ると、交通・通信が45.0%減、経済資源開発が31.5%減と、インフラ部門の開発が完了したことを示している。これに代わって支出の中心は保健・社会サービス(46.6%増)、人材育成(4.4%増)といった福利厚生や教育へと移った。

次により重要な点として、開発総支出が名目値で18.0%減らされた。これは、単にインフラ開発が終わったことだけではなく、石油収入の大幅な落ち込みをも主要な原因としている。このことは、その執行途中で逆石油ショックを迎えた第3次5カ年計画が、実際の総支出を7.8%減らざるをえなかったことから明らかである。この犠牲はもっぱら経済資源開発支出の削減という形で払われ、政府が現在力点を置いている保健・サービス、人材育成などの分野は全く影響を受けず、また地方開発・住宅といった政治的安定に重要な項目では増加を見た。

第4次計画は石油収入減が続くことを見込んでいたとは言え、計画初年度の1985年平均産油量が320万b/dと、計画前提の385万b/dを17%も下回ったことは、国内開発計画の縮小が、予定以上の速さで進むことを予想させる。そして、石油収入の落ち込みがあまりに大きければ、計画の中心項目や、分配的色彩の強い項目への影響をどれだけ食い止めることができるかが、政府の最大の関心事となるであろう。

(642ページに続く)

## 1 月

1日 ▶ファハド国王、「GCC 国民に対する課税はサウジ国民と同等扱い」と発表。ザカート（年収の8.5%）のみ支払えばよい。GCC 国民のサウジ内投資、事業活動促進のため。

▶ファハド国王、来訪中のフセイン・ヨルダン国王と会談。

▶国民産業社 (NIC) の株式の90%が売却済と *Arab News* (以下 AN と略称) 紙報道。SABIC ほどの人気はなし。

4日 ▶アバルハイル財政相、外国企業のサウジ会社への下請け規制に関する通達発表。

6日 ▶東部州知事代行ムハマド=イブンファハド王子、ダンマンのシャリア裁判所を視察。

7日 ▶ファハド国王、レバノン大統領特使と会見。

▶スルタン国防相、「『平和の盾』プログラムに入札中の米企業4社は、みなオフセット計画に合意している」と発言。その効果として、サウジ人にとって投資機会が与えられること、高学歴サウジ人に職場機会を与えることをあげる。

▶SABIC、バハレーンの湾岸石油化学工業社と、販売契約締結。

8日 ▶サルマン・リヤド州知事、「サウジには純民間部門も純政府部門も存在しない。国家と人民のために働く合同企業があるのみである」と発言。商工会議所新ビル落成式で。

▶第2回トルコ=サウジ合同委員会、リヤドで開催。アバルハイル財政相、エルデム・トルコ副首相参加。

10日 ▶ムハマド=イブンファハド東部州知事代行、ハサの灌漑プロジェクトを視察。

11日 ▶ゴサイビ・バハレーン大使、イサ首長にファハド国王のメッセージ伝達。

12日 ▶シェイク警察長官、台湾訪問（～29日）。

▶アラムコ、従業員の62%がサウジ人であると発表。

14日 ▶ターヘル・ペトロミン総裁、アブドゥルアジズ・カタール石油相と会談。

▶イブラヒム・バハ州知事、「ファハド国王が間もなく視察にくる」と発表。

16日 ▶ターヘル・ペトロミン総裁、「イラン=GCC パイプライン」の構想には否定的見解を表明。

▶サウジ=英国銀行、銀行証券預金口座をすでに開設したと発表。

17日 ▶ザミル商業次官、外国企業に対し、下請の30%

をサウジ業者に発注することを義務づけた30%規則に従うよう命令。

18日 ▶ファハド国王、資本金5億 SR の保険会社設立を許可。

▶イブラヒム・バハ州知事、ファイブ労働社会問題相と会談。

19日 ▶ワジ宗教相、パキスタン訪問（～23日）。ジア大統領と会談。

▶ムスリム世界連盟 (MWL) 司法委員会、マッカで開催。

20日 ▶OPEC 専門委員会、油種間格差についての会合、リヤドで開く。

▶GCC 財政専門家会議、リヤドで開催。

▶サウド外相、アラブ7人委員会参加のためイラク訪問（～21日）。

21日 ▶デビッドウエスト・ナイジェリア石油相、「油種間格差は再検討されるべきである」と発言。

▶情報最高委員会、リヤドで開催。シャエル情報相主宰。

▶シェイク警察長官、ヒラル国境警備隊長ら、クウェート訪問。

22日 ▶アブドゥラ皇太子、アルジェリア訪問（～24日）。ベンジェディ大統領と会談。

27日 ▶アブドゥラ皇太子、フランス訪問（～30日）。ミッテラン大統領と28日に会談。

29日 ▶サウド外相、ヨルダン訪問。フセイン国王にファハド国王のメッセージを伝達。

▶マンスーリ外務次官、オマーン訪問。アラウィ外相にサウド外相のメッセージを伝達。

▶訪サ中のタイ貿易使節団、「タイ=サウジ合同委員会」の設立要請。

▶GCC=EEC 第2回会合、バハレーンで開く。

30日 ▶アブドゥラ皇太子、シリア訪問（～9日）。

## 2 月

2日 ▶米・サ円卓会議代表団来訪。アバルハイル財政相、ナゼル企画相と3日に会談。

3日 ▶アラファト PLO 議長来訪。ファハド国王と会談。

▶スルタン国防相、ハミード軍事担当国防次官、ハマド参謀総長と会談。

4日 ▶EC、サウジ産メタノールに再課税を決定。13.4%。年間制限の1600tに達したため。

5日 ▶サバハ・クウェート外相来訪。ファハド国王と

会见。ジャベル首長からのメッセージ伝達。

6日 ▶ムバラク・バハレン外相来訪。イサ首長のメッセージをファハド国王に伝達。

7日 ▶ファハド国王、訪仏。ミッテラン大統領と9日に会談。

9日 ▶民航省、割引航空切符を売った旅行代理店を処罰、閉鎖。

▶ベトロミン、アスファルトの価格をトン当たり50SR値下げ。

▶トワイジェリ副国家警備隊長、シリア訪問。アサド大統領へのファハド国王メッセージ伝える。

▶ファハド国王、第7回国際コーラン暗誦コンテストで、コーランの教えに従えと発言。

10日 ▶ファハド国王訪米(～18日)。レーガン大統領、ワインバーガー国防長官と会談。パレスチナ問題が焦点。米国が中東和平で、再び指導的役割を果たすよう要求。

▶アサド・シリア大統領、ファハド国王からのメッセージ受納。

11日 ▶旅行代理店委員会、ジェッダ商会議所下で結成。

14日 ▶Kuwait Times、非銀行金融業者に預金した米国人等外国人労働者が、倒産のために数百万 $\text{r.}$ の損失をこうむったと報道。

15日 ▶東部州慈善団体の1984年次報告書発表。

17日 ▶バンダル駐米大使、シリア訪問。アサド大統領と会談。

▶アブドゥルモフセン＝イブンジルウィ東部州知事、同州教育局長から60万6000SRの小切手受け取る。

18日 ▶中等教育で、1985/86学年度から、選択科目制を導入と、フワイテル教育相発表。

▶シェイク農業相、二つのアシール淡水化プラント契約に調印。

19日 ▶バンダル駐米大使、ヨルダン訪問。

20日 ▶アンカリ都市村落相、バハレンとクウェート訪問。イサ首長とジャベル首長に、ファハド国王のメッセージ伝達。

▶サウディア航空、苦情局の設置を決定。

▶ムスリム特使、チュニジア訪問。ファハド国王のメッセージを、ブルギバ大統領に伝達。

23日 ▶ムスリム特使、北イエメン訪問。ファハド国王のメッセージをサレハ大統領に伝達。

▶ヤンブーのベトロミン＝モービル製油会社(PEMREF)、スタッフの40%がサウジ人と発表。

24日 ▶ムスリム特使、南イエメン訪問。ファハド国王のメッセージをアリ大統領に伝達。

▶アラル・ヨルダン内相来訪(～27日)。アブドゥラ皇

太子、ナイフ内相と25日に会談。

25日 ▶技術教育職業訓練庁理事会、リヤドで開催。ファイズ労働相主宰。

▶サウド外相、アジズ・イラク外相からのメッセージ受納。

26日 ▶サウド外相、イタリア訪問。アンドレオッチ大統領と会談。

▶ミルヘム国務相、リビア訪問(～27日)。

▶米国ボーイング社らの企業連合、「平和の盾」契約(13億 $\text{r.}$ )獲得。

▶ザミル工電相、バハレン訪問。イサ首長と会談。

27日 ▶サウド外相、フランス訪問。

▶SAMA、リヤル切下げ発表(今年初)。即日実施。1 $\text{r.}$ =3.58SRから3.60SRへ。前回の切下げは84年12月27日。

### 3 月

2日 ▶王室令、ムハマド＝イブン＝ファハド王子を閣僚級で東部州知事に任命。アブドゥルモフセン＝イブンジルウィ前知事は渡米。

▶ムスリム特使、スーダン訪問。ファハド国王のメッセージをヌメイリ大統領に伝達。

4日 ▶ルース英国国務相来訪(～7日)。ファハド国王、サウド外相と5日に会談。

▶ファハド国王、閣僚会議で歳出の削減を命令。

7日 ▶SAMA、リヤル切下げ(今年2回目)。1 $\text{r.}$ =3.60SRから3.61SRへ。前回は2月27日。

▶国民農業開発社理事会、リヤドで開催。

8日 ▶王室令、ハラムのモスク・プロジェクトに9700万SR支出を認める。

▶ジャラル NIC 会長、NIC は、サウジ製薬社の株式で公開されても買い手のない分を請け負うと発言。60%が公開されている。

9日 ▶ファハド国王、南レバノン住民に、1000万 $\text{L.}$ の援助供与決定。

▶ナビ・アルジェリア石油相、シャクシェーキ・リビア石油相来訪。アブドゥラ皇太子、ヤマニ石油相と、OPECの再建について会談。

▶タラール王子、イラン、イラク歴訪に出発。

10日 ▶第1回民間防衛最高会議開催。ナイフ内相主宰。

11日 ▶アブドゥラ皇太子、ビンジャ着。国家警備隊年次合同演習観閲のため(～13日)。

▶アブドゥル＝マジェド・タブーク州知事、国王と皇太子の命で、ティマフ地区を視察。

12日 ▶アンカリ都村相、東部州村落開発公共委員会の設置を命令。ムハマド東部州知事を議長に任命。

▶ファハド国王、ザイド UAE 首長に口頭メッセージを送る。

13日 ▶シャケル・イラク内相来訪。ナイフ内相と会談。

▶マジャリ＝イブン＝サウド国警隊東部州副司令官、兵士のレベル向上のための計画を決定したと発表。

▶第1回サウジ＝イラク貿易合同委員会、非関税貿易品目に46項目を加えることを決定。

15日 ▶民航省、ジェッダ商工会議所旅行代理業委員会を20日に召集することを決定。値引きをやめる誓約書調印を目的。

▶アラムコ、ベクテル＝グループとの2製油所建設契約を取消し。

16日 ▶オザル・トルコ首相来訪(～21日)。ファハド国王と17日に会談。

▶閣僚会議で、アンカリ情報相代行、新予算の特徴は支出合理化であると発言。

17日 ▶GCC 外相会議、リヤドで開催。サバハ・クウェート外相を、イ・イ戦争調停役にイラクへ派遣。

▶情報最高会議、リヤドで開催。ナイフ内相主宰。

18日 ▶アブドゥル＝ラハマン副国防相、フランス訪問(～23日)。ミッテラン大統領、エルヌ国防相と20日に会談。武器購入先の多角化と兵器の質を重視と発言。

▶財政省筋、不況下にあるとの外国報道は根拠がないと発言。

▶タヘル・ベトロミン総裁、これ以上プロジェクトの拡大は行なわないと発言。

▶ボニマン・インドネシア国防相来訪。

19日 ▶アバルハイル財政相、新年度予算は、支出削減、民間部門拡大が中心になると発表。公共サービスを合理化し、銀行を民間部門刺激の手段とすると発言。国際収支改善のための規制は行なわずとも輸入は自然に減少するであろうと述べる。

▶労社省次官補、協同組合銀行設立を検討中と発言。

21日 ▶第4次5カ年計画(85～90年)発表。総支出1兆SR。うち開発支出は5000億SR。

23日 ▶政府、85年度予算発表。歳入出2000億SRの均衡予算。

24日 ▶政府、フランスからの戦闘機購入契約締結との報道を否定。

▶サウド外相とサバハ・クウェート外相、アルジェリア訪問。ベンジェディ大統領と会談。

25日 ▶ナゼル企画相、バハレーン訪問。シラウィ工業開発相と会談。

26日 ▶ファハド国王、サウジ人企業家に、国内に投資するよう要請。サウジ商工会議所第2回会議で。

▶政府、公式声明で、イランに停戦求める。

27日 ▶サウド外相、モロッコ訪問。ハッサン国王と会見。

▶ラクダ・レース開催。

▶サウジ企業家に対し、オフセット計画の初の説明がアブドゥル＝ラハマン副国防相から行なわれる。アバルハイル財政相、民間部門の自助努力、サウジ人雇用拡大を訴える。

▶スルタン国防相、アブハ着。

28日 ▶第2回商工会議所会議、建設契約割当をすべてサウジ企業に限るよう要求して閉会。生産物での外国援助、農業補助金の継続、農産品関税引上げ、SAMA による企業信用向上政策なども要求。

30日 ▶スルタン国防相、国軍のサウダルカビール連隊本部視察。同隊司令官アブドゥラ＝アルヤフェイ出迎え。

▶国内企業家、空調機器産業は、国内市場における政府の保護政策を求めていると AN 紙に述べる。

31日 ▶ザミル工電相、EEC が、関税政策を再考していることを評価すると発言。

## 4 月

1日 ▶エルジャド・バングラデシュ大統領来訪(～3日)。ファハド国王と2日に会見。

▶社会保障局理事会、リヤドで開催。ファイズ労働相主宰。

▶SAMA、石油収入は過去2年間で61%減少と発表。

▶サウジ＝ケーブル会社、サウジ合弁電力会社への、アルミニウム・コンダクター販売契約(1億9600万SR)を取り付ける。電気契約では国内で最大。

2日 ▶ファールク・シリア外相来訪。ファハド国王と会談。

3日 ▶政府、ソ連代表団との会談があったとの外国報道を否定。

4日 ▶港湾局、港湾使用料を5日から2倍にすると発表。

6日 ▶ハフラルパティンで、国内最大の、ハリード国王軍事都市(総工費50億<sup>ドル</sup>)開所式行なわれる。

▶サウド外相、南イエメン訪問。ダリ外相と会談。

▶アバルハイル財政相、国内銀行の役割についてのセミナーで、民営化に伴い、銀行の役割は拡大しようと発言。

7日 ▶GCC 情報次官会議、リヤドで開催。

▶ナゼル企画相、5カ年計画(85～90年)の収入が予想を下回れば、支出(1兆SR)を削減すると発表。予想石油生産量の下限は日産385万<sup>バレル</sup>。

8日 ▶サウジ投資銀行の1984年利益減少。1983年の1430万SRから1210万SRに。



9日 ▶GCC 情報相会議、リヤドで開催(～10日)。

▶ナイフ内相、外国人の違法雇用に対して警告。

▶ファハド国王、ダハブ・ナイジェリア大統領からのメッセージ受納。

10日 ▶湾岸テレビ理事会、リヤドで開催。

▶SABIC とサウジ肥料会社(SAFCO)、ジュベイルでのアンモニア・プラント(年産50万<sup>トン</sup>)合弁事業契約に調印。SAFCO の基盤拡大を意味する。

11日 ▶シンガポール訪問中のソレイム商業相、世界市場をサウジ石化製品の洪水にはしないと発言。

▶ファハド国王、ダハブ・ナイジェリア大統領からの電話を受ける。

▶カリーフ・パハレン首相来訪(～14日)。

12日 ▶サウジの「中東金融グループ」、パハレンのアラブ・アジア銀行を11日に買収したと発表。

▶サウジ農業銀行(SAAB) 東部州支店の1983/84会計年度報告発表。融資額1億4740万SR、補助金1億1846万SR。

14日 ▶サッチャー英首相、インド訪問の帰途、立寄る。ファハド国王と会談。

15日 ▶スーダン国営通信、サウジがスーダンへ3カ月間、毎月73万<sup>バレル</sup>の原油を供給すると発表。

▶スルタン国防相、東部州軍事基地視察のため、ダハラン着。アブドゥルアジズ空軍連隊付属技術研修所の将校クラブ訪問。東部州第5防空隊司令部視察。ナセル＝アルカハタニ中將出迎え。21日まで。

17日 ▶サウジ製薬会社(SPIMACO)の株式公開(28日まで)、商業省、200%以上の応募を見積りと発表。

▶サウジ肥料会社(SAFCO)、84年収益を1億6300万SR、株式配当を30%と発表。

20日 ▶訪米中のアパルハイル財政相、リーガン財務長官らと会見。

21日 ▶情報最高委員会、リヤドで開催。ナイフ内相主宰。トゥルキ＝アルファイサル王子出席。

24日 ▶マーフィ米国務次官来訪。ファハド国王と会談。

▶ハリード国王陸軍士官学校第1期生卒業式。

▶ヤマニ石油相、OPEC の4月の原油生産量は、日産1520～1530万<sup>バレル</sup>と発表。生産上限は日産1600万<sup>バレル</sup>。

▶民間防衛局長会議閉会。防衛最高会議へ勧告書提出。

25日 ▶GCC 放送担当官会議、リヤドで開催。

26日 ▶王室令、アブドゥルアジズ＝イブンアブドゥラ＝アッサリムを、閣僚級で閣僚会議事務局長に任命。

▶アブドゥル＝ラハマン副国防相、サウディア航空は「平和の盾」計画に参加すると発表。

▶米民間貿易代表団来訪(～30日)。

30日 ▶ファハド国王、ファハド国王治安学校とリヤ

ド＝ダンマン高速道路の礎石を置く。

▶スルタン国防相、カシム着。

## 5月

1日 ▶ファハド国王、ジェッダ入り。

3日 ▶農業銀行(SAAB)マディナ支店、83～84年度の融資額、補助金額をそれぞれ、3700万SR、2000万SRと発表。

4日 ▶アブドゥルガニ北イエメン首相来訪(～6日)。ファハド国王と会談。

▶ファハド国王が第2回商工会議所会議の席で、社会保障基金返還方法を改正する意向を表明したと、社会保障局長発表。

▶アラファト PLO 議長来訪。ファハド国王と会見。

5日 ▶ビシュリ北イエメン陸軍参謀総長来訪。アブドゥル＝ラハマン副国防相と会見。

6日 ▶第3回 GCC 労働相会議、リヤドで開催。

▶サルマン・リヤド州知事、麻薬取締りセミナーで、国民の協力をよびかける。

7日 ▶イスラム開発銀行(IDB)、イラクに対するヤシ油購入用の1500万<sup>ドル</sup>融資を決定。

▶ザミル商業次官、米国の貿易法案はサウジ・メタノールに対する規制であり、不当であると発言。

8日 ▶ヤンブーのYANPET社、エチレングリコールの出荷始める。

▶ガフリファルド・イラン・エネルギー相来訪。スルタン国防相と会談。

▶リヤド商工会議所の1000人の会員、新理事会委員12名を選出。オライヤン前会長落選。別に6名を商業相が任命。

▶民間防衛研修所第12回卒業式、リヤドで行なわれる。

9日 ▶ファハド国王、カダフィ・リビア元首の父親の死に際して弔電を送る。ホワイテル教育相、アリ＝ムスリム王室裁判所顧問、リビア訪問。

▶ボンでの第7回西独＝サウジ経済委員会で、サウジ側代表、将来は合弁事業の30%規則是緩和されようと発言。

10日 ▶アブドゥルモフセン・マッカ州知事死去。62歳。

11日 ▶フセイン・ヨルダン国王来訪。ファハド国王と会談。

▶ザミル工電相訪日。小此木通産相と会談。

12日 ▶ザイド UAE 大統領来訪。ファハド国王と会談。

▶海軍研修所第8、9期生卒業式、ダンマンで開催。

▶アブドゥル＝ラハマン副国防相、東部州防空部隊を視察。

13日 ▶GCC 財政相会議、リヤドで開催(～14日)。国

内産業保護政策を検討することを決定。

▶国際民主主義連合代表団来訪、ファハド国王と会談。

14日 ▶スルタン国防相、ファイサル国王空軍学校卒業式で、国内軍事産業創設のための一般委員会、閣僚委員会を設置したと発表。

▶石油筋、ヤンブーを港とする5億<sup>ドル</sup>の東西パイプライン建設契約が落札されたと発表。

16日 ▶イスラム司法学会会議、リヤドで開催。

18日 ▶マッカ慈善協会、83/84年度支出を2150万SRと発表。

▶サウド外相、イラン訪問(～20日)。ベラヤティ外相、ハメネイ大統領、ムサビ首相、ラフサンジャニ国会議長と会談。

▶カダフィ・リビア元首、ウムラのため来訪(～20日)。ファハド国王と会談。

▶石油鉱物資源大学第15期生卒業式。ムハマド東部州知事出席。サルマン・リヤド州知事の子息も卒業。

19日 ▶サウジ産業開発基金83/84年度報告書発表。建築資材では自給達成。

20日 ▶ダファラ・スーダン首相来訪。

▶ジュベイル＝ヤンブー王立委員会、仲買、事業のためのヤンブー工業都市の三つのリース契約を締結したと発表。

▶バツ師、男女が職場を共にすることは、腐敗、社会の崩壊につながると、*Al Riyadh* 紙に語る。女性の職場進出を求める新聞の社説に対して。

▶政府、ジェッダでの爆発事件2件を発表。

21日 ▶ファハド国王、ジェッダからタイフ入り。

▶政府、ヤンブーの84年の人口が11.9%減少したと発表。サウジ人は39.6%増加。

23日 ▶ウンマル＝カラ大学第32回卒業式。1300名卒業。

24日 ▶ナハス元アブドゥルアジズ国王大学教授、物資とサービスの供給過剰に警告。

25日 ▶人材育成委員会、タイフで開催。スルタン国防相主宰。

26日 ▶石油相筋、石油価格引下げの噂を否定。

▶王室令、アブドゥラ＝イブンファイサル＝イブントゥルキ王子(32歳)を王立委員会事務局長に任命。工業保安局長から昇進。

28日 ▶ヤマニ石油相、90年代に湾岸諸国は石油価格支配力を回復しようと、*AN* 紙に語る。

▶行政改革最高委員会、タイフで開催。スルタン国防相主宰。人材委員会、公共統制局、行政調査局の新設を決定。

▶サウド国王大学第25回卒業式。

29日 ▶ムハマド東部州知事、東部州慈善協会総会を主

宰。

▶バツ師、結婚資金の足りない男性のための基金への寄付を市民によびかける。

▶ファイサル国王大学卒業式。1152名卒業。

## 6月

2日 ▶OPEC 閣僚委員会、タイフで開催(～3日)。

▶アルダカニ・イラン外相顧問来訪。サウド外相と会談。ベラヤティ外相のメッセージ伝達。両国関係改善のための対話を重ねることを希望と発言。

3日 ▶ファハド国王、マッカ着。

5日 ▶ジャベル・クウェート首長、ウムラのため来訪。

▶サウジ公共運輸会社(SAPCO)、84年度報告書発表。赤字幅を前年の2億1060万SRから1億2520万SRに削減。政府補助金は前年の3億7550万SRから2億9200万SRに減少。83年：収入2億9930万SR、支出5億9900万SR。84年：収入2億6060万SR、支出3億8580万SR。

▶アブドゥルアジズ国王大学卒業式。卒業生1501名のうち、493名が人文科学、453名が経済・経営学専攻。

▶デビッドウエスト・ナイジェリア石油相、今回のOPEC 総会で、「ファハド国王が、他の加盟国が生産枠を遵守しなければ、サウジも生産量を日産500万<sup>バレル</sup>に引上げる、と警告した」と発言。

6日 ▶サウジ漁業会社84年度報告、収益を3億5700万SRと発表(83年は5億800万SR)。

8日 ▶ダハブ・スーダン大統領来訪。ファハド国王と会見。

9日 ▶サウジ＝アメリカ銀行、84年収益を2億8060万SR、22%減と発表。

10日 ▶SAMA、サウジリヤル切下げ。1ドル＝3.61SRから3.65SRに。今年3回目。前回は3月7日。

11日 ▶王室令、ムハマド＝イブンアブドゥラ＝アルトワイアン中佐、ムハマド＝イブンラジャ＝アルハルビ中佐を少将に昇格。

▶東部州社会保険局、85/86年度予算を1億8700万SRと発表。

13日 ▶ジア・パキスタン大統領、ウムラのため来訪。

▶ムハマド＝イブンハッサン・モロッコ皇太子、ウムラのため来訪(～16日)。ファハド国王と会見。

15日 ▶タレイキ・リビア外相、ウムラのため来訪。

17日 ▶ヤマニ石油相、他のOPEC 加盟国に対し、値引き販売をやめなければ、石油価格はバレル当たり20<sup>ドル</sup>以下になると、17日発売の *Petroleum Intelligence Weekly* 誌上で警告。

▶サルマン・リヤド州知事子息スルタン王子、スペースシャトル「ディスカバリー」に搭乗。

20日 ▶西独野党・社会民主党議員、西独連邦安保委員会がサウジへの武器売却を承認したと発言。

▶スルタン国防相、軍事基地視察のため、ナジュラン着。

21日 ▶西独政府報道官、サウジへの武器輸出計画を否定。

22日 ▶穀物・サイロ局、小麦輸入を中止したと発表。

23日 ▶アブドゥル＝ラハマン副国防相、タブークの空軍パラシュート学校を視察。

24日 ▶アブドゥラ皇太子、オーストリア訪問(～26日)。シノワツ首相と会談。

▶サタム・リヤド州副知事、電話線や水道管を棄損しないよう通達。

▶東部州ハサの社会開発センター、社会・保健事業に84年は46万1000SRを支出したと発表。

▶リヤド商工会議所、第3次5カ年計画(80～85年)中の農業部門成長率を5.6%と発表。

▶ザミル工電相訪仏(～27日)。SABICとの合併事業参加を要請。

▶教育相、ビシャ、ジザン、ハフルバティンで2カ月にわたる文盲撲滅キャンペーン開始。

▶GCC農業相会議、リヤドで開催(～25日)。GCC間の合併事業実施に合意。

25日 ▶アブドゥル＝ラハマン副国防相、アブドゥルアジズ国王軍事基地の役割を評価。

26日 ▶政府、「サウジは、オマーンに対し、米国との距離を置くことと引き換えに、財政援助を申し出た」との24日付 *Washington Post* 紙の報道を否定。

28日 ▶ハイル商工会議所、地元企業に対し、管理・財務職にサウジ人を雇用するよう通達と、28日付 *Okaz* 紙報道。

29日 ▶GCC財政相会議、リヤドで開催。食糧安全保障について。

▶アブドゥル＝ラハマン副国防相、ダハランのアブドゥルアジズ国王空軍基地を視察。サウジ国軍の任務は、イスラムの護持と平和の大義への献身であると語る。

30日 ▶サウジ製薬会社(SPIMACO)、カシムでの薬品工場建設のための500万<sup>ドル</sup>の契約を、フランスとドイツの企業と締結。

▶サウド外相、モロッコ訪問(～2日)。ハッサン国王に、ファハド国王のメッセージを伝達。

## 7月

1日 ▶運輸省、ジザン州のダルマハ島とカマハ島を結ぶ橋を計画中と発表。

3日 ▶ファハド国王、グロムイコ・ソビエト最高会議

幹部会議長の選任に際し、祝電を送る。

▶ファハド国王スポーツ都市開所。ファハド国王参席。

▶リヤドで開催中のGCC商業相会議、共同食糧安保戦略に合意。食糧備蓄センターの設置などを計画。

▶国家警備隊、歴史書を発行。

5日 ▶ハーリド＝ハラフ、湾岸標準化機構事務局長に任命される。

6日 ▶ハサ、カティフ、ハフルバティン(東部州)の農業銀行支局、ラマダン期に合計59件、620万SRの融資を行なったと発表。

▶スルタン＝イブンサルマン王子、宇宙飛行を終え、帰国。

8日 ▶GCC外相会議、バハで開催。

▶シェイク農水相、3農業プロジェクト、総額3300万SRを承認。

▶ジェッダ港湾局長、84年の食糧品輸入量を1117万<sup>トン</sup>と発表。前年比56%増。

▶ジャンキティ・ジザン市長、アブ＝アリス地区開発予算(85～86年)、2610万SRを発表。

▶ナセフ・イスラム世界連盟(MWL)事務局長、MWL予算のほぼ全額をサウジ政府が負担していると、*Al Madinah* 紙8日付で発言。

9日 ▶サウジ信用銀行、83/84会計年度の融資額を2億5200万SRと発表。

▶フセイン・ヨルダン国王来訪。ファハド国王と会談。

10日 ▶PLOファタハ派、サウジから2850万<sup>ドル</sup>の寄付を受けたと発表。

11日 ▶アラブ石油投資会社(APICORP)、1984年の収益を5300万<sup>ドル</sup>、うち2000万<sup>ドル</sup>が配当金として支払われると発表。

▶マシュール＝イブンサウド＝イブンアブドゥルアジズ王子、コカイン密輸でロンドン警視庁に逮捕される。

12日 ▶フマユン・バングラデシュ外相来訪。ファハド国王、サウド外相と会談。

13日 ▶石油省筋、サウジが今年末までに原油生産量を日産900万<sup>バレル</sup>にするとの *MEES* 誌の報道を否定。

▶ファイズ労働相、大卒サウジ人の民間部門への就職を認めた閣僚会議の決定は、民間部門からの要請に応えたものであると発言。

14日 ▶ナセフ・ムスリム世界連盟事務総長、スーダンは、シャリアの実施に際し多くの誤ちを犯したとスーダン紙に発言したことを否定。

▶ハーリド＝アルゴサイビ、アラブ投資会社(TAIC)会長に選任される。

▶穀物・サイロ局、小麦生産者に対し、1984年には42億5000万SRを支払ったと発表。

▶ザミル工電相、タイフで財界関係者と会談。

15日 ▶サウディア航空が新規購入したボーイング747-300試乗飛行。

▶マンスーリ運輸相、ハッジ後に、トラック積荷の重量規制を行なうと発表。道路の破損を防ぐため。

▶第5次サウジ=ヨルダン経済合同委員会、リヤドで開催。

▶サウジ肥料会社(SAFCO)、過去5カ月の純益を7000万SRと発表。

▶サウド外相、ムハマド・イラン代理大使と会談。

16日 ▶ハダム・シリア副大統領来訪。ファハド国王と会見。アサド大統領からのメッセージ伝達。

▶イラク石油筋、8月からサウジのヤンブー経由で100万b/dの原油を輸出すると、MEES誌16日に語る。

17日 ▶ハイル農業開発会社、8月1日から20%の配当金を支払うと発表。

▶東部石油化学会社(シャルク)、11日から低密度ポリエチレンの生産を開始したと発表。生産能力は年産30万トン。

▶スルタン国防相、タイフの新軍事施設開所式に参席。軍事訓練、作戦、設備、研究の面で80%の自給化を達成したと発言。

18日 ▶ファハド国王、ジェッダ着。

▶ルザニ・イラン外相特使来訪。サウド外相と会談。ベラヤティ外相のメッセージを伝達。

▶サウジ開発基金のチュニジアへの5000万SR融資、調印される。

19日 ▶日本・安倍外相来訪(～21日)。ファハド国王、サウド外相と会談。

20日 ▶アジズ・イラク外相来訪(～21日)。ファハド国王、サウド外相と会談。

▶農業水利省、1984年度報告書発表。

▶ジャンキティ・ビシャ市長、同市の1985年度予算を2230万SRと発表。うち1290万SRは開発費。

▶行政研修所、1983～84年の各省庁からの研修生を4769名と発表。

21日 ▶リヤド銀行、84会計年度の純益を、前年度の5億8200万SRから12%減の5億1100万SRと発表。

▶フィラリ・モロッコ外相来訪(～23日)。サウド外相と会談。ハッサン国王のメッセージ伝達。

▶イスラム開発銀行のアルジェリアへの4000万ドル融資協定調印される。

▶内務省、武器保有市民は、9月14日までに警察から許可証をもらうよう通達。

22日 ▶カジ=アブドゥルジャワド、湾岸国際銀行総裁に任命さる。

23日 ▶アラファト・PLO議長来訪。ファハド国王と会見。

▶政府、中学校必修科目に新たに国民教育とコンピューター学を含めることを発表。

25日 ▶金融筋、イラク=サウジ・パイプライン建設のための対イラク2億8000万ドル融資交渉を、アラブ石油投資会社ら4金融機関が取りやめたと発表。収益率が低いため。

26日 ▶イマーム=ムハマド大学、1983～84年卒業生を1万1399名と発表。

27日 ▶アームストロング將軍ら、米国軍事代表団来訪。スルタン国防相と会見。

▶サウジ石油化学会社(Sadaf)、7月中旬に極東向けスチレン7500トンを初出荷したと発表。

▶アブドゥラ皇太子、モロッコ訪問。ハッサン国王と会談。

29日 ▶イスラム開発銀行、チュニジアへの1000万ドル融資協定に調印。

▶サウジ・テレコム会社、84会計年度末までに78%のサウジ化を達成したと発表。

30日 ▶ヤマニ石油相、開発事業を続けるためには、OPEC石油販売割当てに従った生産が必要とAN紙に語る。

31日 ▶スルタン国防相、「平和の盾」計画国防プロジェクトの礎石を置く。

▶ファイズ都市村落相代行、総額6100万SRの八つの農村開発プロジェクトを承認。

## 8月

4日 ▶イスラム開発銀行、北イエメンへの2150万ドル融資決定。石油製品輸入のため。

5日 ▶サウド外相、アラブ外相会議参加のためにモロッコ訪問。

▶SABIC、84年度報告書発表。第4次5カ年計画(85～90年)での総支出額を160億SRと計画。

6日 ▶タラミ・イラン代理大使、AN紙上で、イラン人巡礼者へのサウジ当局の受入れ措置に感謝の意を表明。

7日 ▶アブドゥラ皇太子、アラブ首脳会議(～9日)出席のためモロッコ訪問。

▶ファハド国王、フェイサル国王軍事基地を視察。

8日 ▶北部州、第3次5カ年計画(80～85年)の開発支出を9億SRと発表。

10日 ▶国内企業5社、空港の維持・管理事業を初めて受注。総額6億5000万SR。

▶ホワイトヘッド米国國務次官来訪。ファハド国王と会談。

▶サウジ肥料会社 (SAFCO), 84 年の尿素生産量を 35 万 650 立方メートルと発表。

11日 ▶内務省, 市民は国内旅行の際に身分証明書を携帯するように命令。

▶王室令, 国家警備隊のアウトダット=イブンドワイヒ=アッシュマリ少佐, オワイド=イブンアリ=アルクダリ少佐をそれぞれ少将に, スルタン=イブンハリール=イブンオマル=アルカハタニ中佐を大佐に昇格。

12日 ▶東部農業開発社の株式公開終了。400万株 (4 億 SR) のうち 240 万株を 7 月から公開していた。

▶地元企業, ファハド国王治安大学建設プロジェクトを受注。

13日 ▶MEES 誌, サウジの 8 月に入ってから平均原油生産量を日産 220 万バレルと発表。

14日 ▶気象環境保護局 (MEPA), 技術革新に伴うベドウィンの生活条件の変化を調査する計画があると, AN 紙に発表。

17日 ▶ドュマ仏外相来訪。ファハド国王と会談。ミッテラン大統領のメッセージを伝達。

▶「アッラジ短期ドル基金」, 民間為替取引業者によって設立される。米ドルを使った短期投資家を対象。

18日 ▶タウフィク・スーダン国軍参謀長来訪。ファハド国王と会談。ダハブ大統領のメッセージを伝達。

▶ニューヨークの「組織資源コンサルティング社」, 従業員訓練費の高さがサウジ化への障害となっているとの調査結果を発表。

19日 ▶アリ=イブンハムード=アルカイエ国家警備隊大佐, ラヒル=イブンアルアイス=アルオタイビ同大佐, 17 日付でそれぞれ准将に昇進。

▶ムハマド東部州知事, ナトシャ PLO 代表と会談。

21日 ▶ファイサル=イブンファハド青年福祉局長, サッカー代表チームを率いてソ連訪問 (～31 日)。

▶エルシャド・バングラデシュ大統領, ハッジのため来訪 (～30 日)。ファハド国王, スルタン国防相と会談。

▶港湾局, 1984 年の港を通じた輸入は 2% 減と発表。

22日 ▶マッカの美化・整備計画に 50 億 SR が費されたと, トゥワフィク知事語る。

▶イディアグボン・ナイジェリア首相, ハッジのため来訪。

24日 ▶ファハド国王, ルーマニアの建国記念日に際し, チャウシェスク大統領に祝電を送る。

▶フェイズ都市村落相代行, 道路舗装・維持の工事契約 (1150 万 SR) を, 三つの地元企業と結ぶ。

▶東部州のアルビル慈善協会, 断食明けの 700 万 SR の恒例の寄付に加えて, 犠牲祭時に 100 万 SR の寄付を 2950 家族に行なうことを発表。

26日 ▶財政省筋, サウジの貿易赤字を伝えた英国の銀行, ナショナルウエストミンスター・バンクの報告を否定。

27日 ▶ファハド国王, 断食明け祭りの翌日の演説で, イスラム世界の団結を訴える。

▶アフマド副内相, アフガニスタンのムジャヒディン巡礼者のキャンプを訪問。

29日 ▶スルタン国防相, アジールの軍事基地を視察。

▶政府筋, サウジ=バハレーン連絡橋の開通日は 12 月 16 日のバハレーン建国記念日と発表。

30日 ▶政府筋, サウジ=バハレーン連絡橋の開通は 1 年延期されたと発表。

31日 ▶東部農業開発社 (EADC), ダンマン北のアルファズリ地方の開発計画 (2900 万 SR) を地方企業に発注したと発表。

## 9 月

2日 ▶スルタン国防相, 南部地方の軍事施設を視察 (～7 日)。今回の視察について, 政治的意味あいはなく, 恒例のものと AN 紙に語る。

▶サウジ=カイロ銀行, サウジ=英国銀行, 1～6 月の収益が前年同期比で, それぞれ 39.6%, 50.9% 減少したと発表。

▶運輸省, 現在進行中のプロジェクトのうち, 186 件, 200 億 SR が地元企業によると発表。合併企業は 7 件, 10 億 SR, 外国企業は 24 件, 50 億 SR。

▶GCC 外相会議, リヤドで開催。

▶ファイサル青年福祉局長, ソ連外務省高官との会談を, 非常に有益なものであったと, クウェート紙に語る。

4日 ▶サウジ=オランダ銀行, 1～6 月の収益が前年同期比で 18.5% 減少したと発表。

▶教育省, 84/85 年度報告書発表。

5日 ▶王室令, アフマド=アブドゥルワッハブ王室儀典局長を解任。

7日 ▶シェイソン EEC コミッショナー来訪 (～9 日)。ビンチャラ GCC 事務局長と会談。話し合いに進展はなかったと, 帰国後に語る。

▶ムハマド東部州知事, バハレーン訪問。イサ首長と両国間連絡橋について会談。

8日 ▶イブラヒム・イラク革命評議会副議長来訪 (～10 日)。ファハド国王と会談。

▶王室令がサウジ肥料会社 (SAFCO) 株式の 8% を新職員に分配することを命じたと AN 紙発表。

▶タラール王子, シリア訪問。

9日 ▶ジェマイエル・レバノン大統領来訪。ファハド国王と会談。

10日 ▶ダンマンとリヤドを結ぶ特急列車の運行開始。最高時速は時速 150km。

▶GCC 教育相会議、リヤドで開催(～11日)。授業内容を統一することを決定。

▶アブドゥラ皇太子、シリア訪問(～11日)。アサド大統領と、レバノン問題、リヤドでの次期アラブ首脳会議について会談。

11日 ▶アルマンクル農業銀行局長、農業関係の融資が中止されたとの噂を *Al Jazira* 紙上で否定。

▶ファハド国王、カブース・オマーン首長のメッセージを受納。イブンハルブ内相伝達。

▶アブドゥラ皇太子、ムザリ・チュニジア首相、クリビ・アラブ連盟事務総長からなるアラブ調停委員団、ヨルダン訪問(～12日)。シリアとヨルダン・イラク・PLO との間の関係改善について、フセイン国王と会談。

12日 ▶アブドゥラ皇太子ら一行、イラク訪問(～14日)。サダム＝フセイン大統領と会談。最終的に、シリア、イラク、ヨルダンから次期アラブ首脳会議への参加約束を取りつける。

▶内務省、武器保持者は9月14日までに登録を終えるよう命令。

▶イスラム調停委員会、ジェッダで開催(～14日)。

14日 ▶王室、英国からの戦闘機購入計画を発表。

▶ヤマニ石油相、13日のオックスフォード・エネルギー・セミナーで、石油価格が来年春には15～18<sup>ドル</sup>になろうと予測したとの報道に対し、これを否定。

15日 ▶ムハマド東部州知事、2国内企業とハサ、カティフ水道工事契約に調印。

▶サウジ投資銀行(SAIB)、1～6月期に140万SRの損失が生じたと発表。前年同期は70万SRの収益。

16日 ▶カシム・シリア首相、リファイ・ヨルダン首相来訪。アブドゥラ皇太子の仲介により、和解のための会談。

17日 ▶GCC 内相会議、リヤドで開催(～18日)。

18日 ▶ファイサル青年福祉局長、訪日。GCC 青年文化フェスティバルを主宰。

▶スレイマン商業相、シリア訪問。

20日 ▶女子教育局長、84/85年度の女子学生登録数を82万1371人と発表。

21日 ▶フィラリ・モロッコ外相来訪。ファハド国王と会見。フセイン国王からのメッセージ伝達。

▶サウド外相、オマーン訪問。カブース首長と会見。ファハド国王のメッセージ伝達。

▶ムハマド東部州知事、ジュベイル貯水塔総額2235万SRの建設契約に調印。

22日 ▶ファハド国王、イスラム大学での講演で、サウ

ジは他の産油国同様、自らの意志で石油生産量を決定する権利を持つと発言。

23日 ▶閣僚会議、都市拡張計画を今後2年間凍結することを決定。

▶リヤドで建国45周年記念にあわせたクーデター未遂発生。王子2名を含む軍将校4名の首謀者は、直ちに処刑される。*Mid East Market* 誌10月14日号伝える。

24日 ▶GCC 工業相会議、アルコバールで開催(～25日)。

▶第6回ヒジュラ暦統一会議、マッカで開催(～26日)。OIC 後援、宗教省主催。

25日 ▶スルタン国防相、英国訪問(～28日)。ジェット戦闘機「トーネード」72機を含む132軍用機購入契約に調印。推定総額43～57億<sup>ドル</sup>。ファハド国王の22日の発言を引用し、武器購入に上限はないと語る。

▶ファハド国王、カブース・オマーン首長からのメッセージ受納。パドル内相伝達。

26日 ▶内務省、民事訴訟規定を公布。11月10日のAN紙、これを解説。

28日 ▶第10回GCC 財政相会議、リヤドで開催(～29日)。

29日 ▶ムハマド東部州知事、下水道の操業・維持契約(5100万SR)に調印。

## 10月

1日 ▶王室、1日のイスラエルによるPLO本部爆撃を、国際法違反の犯罪行為と非難。

▶王室令、サイヤリ SAMA 総裁代行を同総裁に任命。

▶サルマン・リヤド知事、ヨルダン訪問。ハッサン皇太子と会談。

▶アッタル北イエメン副首相来訪。ファハド国王にサレハ大統領のメッセージ伝達。

3日 ▶港湾局、85年上半期の紅海港陸揚げを前年同期比16%減と発表。

4日 ▶国連総会出席のため訪米中のスルタン国防相、レーガン大統領と会談。米国は、F-15E戦闘機購入を希望するサウジの要求に即答を避けたと述べる。

▶内務省、巡礼者の滞在延長に対して警告。

5日 ▶ムハマド東部州知事、水道整備計画(4160万SR)に調印。

7日 ▶第5回GCC 参謀長会議、リヤドで開催(～8日)。

8日 ▶スルタン国防相訪仏(～9日)。ミッテラン大統領と会談。ミラージュ2000型購入を検討中と語る。

▶ペトロミン、83年の原油販売量を5億3100万<sup>バレル</sup>と発表。81年は7億5100万<sup>バレル</sup>。

▶ザミル工電相、国内電力会社は国内総需要量の20%をまかなっていると発表。

11日 ▶政府、84年の輸入を12.3%減の1180億SRと発表。

12日 ▶アブドゥラティフ SAMA 副総裁、金融界の競争に残るためには、通貨当局との密接な関係と、国内貯蓄の吸収力を高めることが必要であるとAN紙に語る。

13日 ▶サルマン・リヤド州知事、国家・地方行財政庁のシンポジウムで、公共の必要にあった支出のみを行なうように訴える。

14日 ▶Okaz 紙、労働局の仲介で84年に民間部門に就職したサウジ人の数は、技術職では前年比12%、農業職では40%上昇したと発表。

▶石化製品をめぐる GCC と EEC 間の初の閣僚級会議、ルクセンブルグで開催。

19日 ▶ムハマド東部州知事、駐サ英国大使と会談。

20日 ▶ムハマド東部州知事、ナージム国際協力相と会談。

21日 ▶国防省、英国との兵器購入契約をめぐる王族が多額の仲介料を受け取ったとの英国 Observer 紙19日の報道を否定。

▶ジュベイル石化化学会社(ケミヤ)、遅延されていた1億1840万<sup>ドル</sup>融資協定の調印は、29日に行なわれると発表。

▶GCC 石油相会議、リヤドで開催(～23日)。

22日 ▶スルタン国防相、東部州のハフラルバティン、ダハランの軍事基地視察(～23日)。

▶SABIC、イースタン石化会社(シャルク)が9月に輸出を開始したと発表。

23日 ▶消息筋、現在の石油生産量は日産320～340万<sup>バレル</sup>であり、近いうちに435万<sup>バレル</sup>水準を回復することが目標になっていると発表。

24日 ▶ホワイテル郵便相、イラク訪問。サダム・フセイン大統領と会談。ファハド国王のメッセージ伝達。

25日 ▶ムアイアド・バハレーン内相を代表とする視察団、アシール州を訪問。ゴサイビ駐バハレーン大使同行。

28日 ▶ファハド国王、リヤドでのシリアとヨルダンの和解会談の成功を歓迎すると発言。

▶サウジ開発基金、アルジェリアへの8600万SR融資協定に調印したと発表。

29日 ▶ジュベイル石化会社(ケミヤ)、8商銀との1億4000万SR および8000万SR の中期シンジケート融資協定に調印。

31日 ▶アラファト PLO 議長来訪。フセイン・ヨルダン国王との会談について、ファハド国王と会談。

## 11月

1日 ▶リヤド市は食堂、床屋、洗濯屋の料金を公定に

すると、Al Riyadh 紙報道。実施時期不明。

▶ファハド国王、マディナ開発閣僚会議の席で、同市開発計画第1期工事の着工を命令。

2日 ▶ザミル工電相、EEC はGCC の石化製品に対する一方的輸入関税を撤廃すれば、GCC 市場へ自由に参入することができるという。

▶ファハド国王、カトラー駐サ米国大使にレーガン大統領へのメッセージを託す。

4日 ▶GCC 首脳会議のためオマーン訪問中のファハド国王、イサ・バハレーン首長と会談。

▶ジア・パキスタン大統領、ウムラのため来訪。

5日 ▶アラブ治安研究研究所、リヤドに開設される。ナイフ内相、開所式に出席。

▶オマーン訪問中のファハド国王、ジャベル・クウェート首長と会見。

6日 ▶サウジ=インドネシア経済合同委員会、ジャカルタで開催。

▶サラマ SABIC 副会長、サウジ産石化製品が政府補助金によってダンピング輸出されているとの西側の非難を否定。

7日 ▶SABIC 販売会社、86年の石化製品の売上を85年を10%上回る220万<sup>ドル</sup>と予測。

8日 ▶財政省、各省庁に対し、建設会社に支払う代金のうち、工事の遅れのために10%を差し引くことをやるよう通達。

▶東部州道路局長、州内の道路総延長は第3次5カ年計画終了(80～85年)までに3885km に達したと発表。

▶ヤマニ石油相、International Herald Tribune とのインタビューで、非 OPEC 産油国が生産抑制に応じなければ、石油価格は86年夏に1<sup>ドル</sup>20<sup>セント</sup>まで下がるであろうと警告。

▶アブドゥラ王立委員会事務局長、第二次産業の発展のために民間部門の努力を要請。

9日 ▶タキ・イラク石油相来訪。ヤマニ石油相と会談。

▶駐イラン・サウジ代理大使、ペラヤティ外相と会見。サウド外相からの文書を伝達。

▶サウジ電力会社西部局長、電力料金値上げに関する利用者からの不満に対し、AN紙上で新料金制度を再度説明。また、徴収段階での誤りについては、これを改善すると述べる。

▶商業省、冷凍農産品の値段は、輸入禁止措置以前の水準に戻ったと発表。

10日 ▶スルタン国防航空相、サウディア航空のボーイング707を徐々に同747、エアバス、トライスターに代替することを発表。

12日 ▶タヘル・ペトロミン総裁、石化プラント建設の

遅れの理由は、財源不足であると AN 紙に発言。

▶ベトロミン、現在の製油能力を日量195万バレルと発表。

▶タイフ市、公務員中のサウジ人比率を現在81%と発表。

13日 ▶マンソリー運輸相、トラックの重量規制を発表。27日から適用。

▶労働次官、民間部門労働者の外国人比率を現在は70%と発表。

14日 ▶米国商業省、サウジ製鉄鋼がダンピング輸出されているとして、同製品に10.52%の暫定関税をかけることを決定。

17日 ▶ムハマド東部州知事兼上下水道局長、カティーフの下水道プロジェクト契約に調印。

▶アブドゥラ皇太子、オマーン訪問(～20日)。18日、建国記念式典に参列。ムバラク・エジプト大統領、カブース首長と個別に会談。

▶ハイル農業開発会社総局長、小麦の過剰在庫を減らすために85年の買付けを制限するとの政府通達を受けたと AN 紙に語る(18日報道)。

▶ハダム・シリア副大統領来訪。ファハド国王と会談。アサド大統領のメッセージ伝達。

▶ティハマ社理事会、ファハド＝イブンナイフ王子主催の会議で、サレハ＝アブドゥラ＝カメルを副会長に選任。

20日 ▶公式筋、小麦買付けに関する18日 AN 紙の報道を否定。ファハド国王は85年も例年どおりの買付けを行なうよう命令したと伝える。

24日 ▶ザミル工電相、SABIC の石油化学プラントが全て稼動すれば、年間40億 SR の売上げを見込むことができると24日発売の *Tegarat Al-Riyadh* 誌に語る。

▶ジャ・パキスタン大統領来訪。ファハド国王と会談。

▶ムハマド東部州知事、ダンマン＝アルコパール＝ダハラン・パイプライン建設契約に調印。

25日 ▶ファハド国王、閣僚会議で、シェイク農業相と農民の問題について会談。

▶財政省、サウジが85年財政赤字補填のため外貨準備を取り崩したとの *Middle East Economic Survey* の報道を否定。

▶穀物サイロ局長、85年の小麦生産量は170万バレルに達するであろうと語る。

▶統計局、84年の物価上昇率をマイナス2.2%と発表。

26日 ▶ヤマニ石油相、26日付の *Al-Rai Al-Ram* 紙とのインタビューで、価格競争がおきれば石油価格はバレル20ドルにまで下がろうと語る。

▶ダハラン国際空港で、第5回非常訓練行なわれる。ムハマド東部州知事主宰。

▶GCC 民航相会議、リヤドで開催。

27日 ▶ザミル工電相、電力会社に対し、料金滞納者への電力供給停止は今後2カ月は行なわないよう通達。

▶スルタン国防相、国産兵器工場設立のための視察団が、米国、英国、西独、ブラジル、スイスを訪問中と発表。

▶ムハマド東部州知事、同州の優秀な学生に奨学金を毎年与えると発表。

28日 ▶ムハマド東部州知事、上下水道建設第3期工事契約に調印。

30日 ▶アラウィ・オマーン外務担当國務相来訪。ファハド国王に、カブース首長のメッセージを伝達。

▶サウジ＝カイロ銀行、1～9月の収益を前年同期比72.5%減と発表。

▶ザミル工電相、政府機関と民間企業に対し、建築資材の鉄鋼はSABIC製のものを使うよう要請。

## 12月

2日 ▶閣僚会議、電力料金値下げを決定。11月23日にさかのぼり発効。

▶マーフィ米国國務次官来訪。ファハド国王と会談。

▶スルタン国防相、レバノン紙とのインタビューで、ソ連が国内イスラム教徒に対して敵対的な態度をやめれば同国との外交関係樹立を考えると語る。

3日 ▶ジェッダ商工会議所事務局長、国内開発計画への融資に対して銀行が担保と投資収益を要求するのは当然であると AN 紙に語る。

4日 ▶ザミル工電相、電力会社は過去1年間に3000人の人員削減を行なったと発表。

▶スルタン国防相、北部州基地を視察(～7日)。

6日 ▶ペラヤティ・イラン外相来訪(～8日)。サウド外相と会談。7日、ファハド国王と会談。イランの対イラク姿勢変わらず。

▶EEC、サウジ製メタノール、エチレングリコール等の石化製品の免税輸入割当量引き上げを決定。

9日 ▶王室令、イブントゥルキ＝イブンファイサル＝アブドゥラ王子をジュベイル＝ヤンブー王立委員会事務局長に任命。

10日 ▶スワレダハブ・スーダン軍事評議会議長来訪。ファハド国王と会談。

▶王室令、軍事産業公社の設立を公認。

11日 ▶ムハマド東部州知事、カフジ市を視察。

13日 ▶商業省、セメントの自給率を発表。81年から85年までの各年値は、33, 39, 36, 37, 56%。

14日 ▶アブドゥラ皇太子、スイス訪問。

16日 ▶ファハド国王、電力料金を1キロボルト＝アンペアにつき50 SR にするとの閣僚会議の決定を承認。13日にさかのぼり実施。



17日 ▶スルタン国防相, バングラデシュ訪問(～20日)。エルジャド大統領と会談。

▶スルタン国防相, *Al Jazirah* 紙とのインタビューで、ソ連との将来の関係は、イスラムの諸問題に対するソ連の態度によると語る。

21日 ▶タラル王子, チュニジア訪問。ブルギバ大統領と会談。

▶ファハド国王, サダム・フセイン・イラク大統領からの親書を受納。

22日 ▶第2回イスラム司法学会, ジェッダで開催(～29日)。銀行の利子はイスラムに反すると判定。

23日 ▶アバルハイル財政相, 行政研修所のセミナーで、「民間部門は政府から補助金を受けているのに、現在政府が購入している製品の価格は割高である」として、値下げを要求。

▶内務省, 84年統計発表。

630 ページより続く

## 外交・軍事

●外交活動の停滞 アラブ諸国が分裂するなか、サウジアラビアの外交も、湾岸以外の地域に関しては消極的であった。この態度は、8月のアラブ首脳会議にファハド国王が欠席し、アブドゥラ皇太子を代理として送ったことからもうかがうことができる。シリアとヨルダンの和解工作というただ一回の調停役も、アラブ首脳会議調停委員会の決定に従ったものであった。

5月にサウド外相は、イランを1979年の革命以来初めて訪問した。その後のベラヤティ外相の来訪、さらに次官級レベルでの接触も合わせれば、両国関係の進展は認められる。しかし、イ・イ戦争調停の試みは12月の外相会談でも成功せず、サウド外相は、「イランの態度に変化は見られない」として調停工作を断念したと表明した。

また、2月のファハド国王の訪米も、パレスチナ問題解決についての両国の立場の違いを縮めることはできなかった。共同コミュニケのなかで、ファハド国王は「パレスチナ人国家」の建設を目ざすフェズ憲章を支持したのに対し、レーガン大統領も「ヨルダンとの連合によるパレスチナ人の自治」という主張を変えることはなかった。

●ソ連との関係 一方、ソ連との外交関係締結

25日 ▶アバルハイル財政相, シラウィ・バハレン工業相と、両国連絡橋管理会社の設立契約に調印。

28日 ▶大麦小売価格, 28 SR から 12 SR に値下がり。港での荷降ろし方法の変更のため。

29日 ▶ファハド国王, カダフィ・リビア元首からのメッセージ受納。ジワイ同国特使伝達。

30日 ▶ムハマド東部州知事, 水道設備運営のための契約に調印。

▶アジズ・イラク外相来訪。ファハド国王と会見。

31日 ▶王室令, ファハド＝ラディファン＝アルオタイビ准将を8月14日付で少将に、アブドゥラ＝ジェルバク＝アルオライミ大佐を7月18日付で准将に、アミン＝フセイン＝ザクズク准将とアブドゥルラハマン＝アブドゥラ＝アルジャセルを9月17日付で少将に、サレハ＝ファレス＝アッザハラニ大佐を8月17日付で准将軍医に、それぞれ昇格。

にはなお慎重な態度が見られるものの、今まで水面下で続いていた接触は、しだいに表面化しつつある。両国駐ロンドン大使を通じ非公式会談を続けていたサウジアラビアは、8月、ファイサル青年福祉庁長官を、政府高官としては初めてソ連へ派遣した。また、スルタン国防相も、ソ連が国内のイスラム教徒への敵対的態度をやめれば、サウジは同国と国交を樹立するとして、アフガニスタン問題を国交樹立の条件からはずし、対ソ姿勢を緩和させている。

1985年に入ってからソ連はオマーン、UAEと外交関係を締結し、すでに外交関係のあるクウェートをも含めた湾岸首長国への影響力を拡大している。また、サウジが多面化による独立した外交姿勢を目指していることから、両国は接近する方向にあると言える。

●軍事 兵器購入は、「上限はない」とのファハド国王の言葉どおり財政難のもとでも着実に行なわれている。アブドゥルラハマン副国防相のフランス訪問、スルタン国防相のイギリス(9月)、フランス訪問(10月)により、トルネード、ミラージュ2000型等の戦闘機購入契約が締結された。国防費も歳出削減のあおりを受けているものの、予算に占める割合は依然高く、予算比では1984年の30.7%から85年の32.1%と、かえって増加している。12月には軍事産業公社の設立も認められている。

# 参考資料 サウジアラビア 1985年

## 1 地域国際機関主要役職

### 2 サウジアラビア閣僚名簿

#### 3 その他の主要役職

## 4 国軍, 国家警備隊等

### 5 州知事

#### 6 人事異動

## 1 地域国際機関主要役職

アラブ連盟 事務総長 Chadli Klibi (チュニジア)

イスラム諸国機構 (OIC) 事務総長 Sayed Sharifuddin Pirzada (パキスタン)

ムスリム世界連盟 (MWL) 事務総長 Dr. Abdullah Omar Naseef

OPEC 事務総長 空席

OAPEC 事務総長 Ali Ahmad Attiga (リビア)

イスラム開発銀行 (IDB) 総裁 Ahmed Mohammad Ali GCC (湾岸アラブ諸国協力評議会)

事務局長 Abdullah Yacoub Bishara (クウェート)

政治担当副事務局長 Ibrahim Mahmoud al-Subhi

経済担当副事務局長 Dr. Abdullah al Quwais

軍事担当副事務局長 Ibrahim Noban

GOIG (湾岸工業評議会機構)

事務局長 Abdullah Hamad al Majed

ROPME (海洋環境保護地域機構)

事務局長 Abdul Rahman al Awadi

(クウェート保健相)

## 2 サウジアラビア閣僚名簿

国王 Fahd ibn Abdul Aziz al Saud  
 皇太子 Cr. Pr. Abdullah ibn Abdul Aziz al Saud  
 第1副首相 Saud

第2副首相・

国防航空相 Pr. Sultan ibn Abdul Aziz al Saud

外務相 Pr. Saud ibn Faisal ibn Abdul Aziz al Saud

石油鉱物資源相 Ahmad Zaki Yamani

情報相 Ali Hassan al Shaer

内務相 Pr. Naif ibn Abdul Aziz al Saud

財政国家経済相 Sh. Mohammad al Ali Abal Khali

企画相 Hisham Moheddin Nazer

工業電力相 Abdul Aziz al Zamil

商業供給相 Sulaiman Abdul Aziz al Sulaim

郵便電信電話相 Alawi Darwish Kayyal

農業水利相 Abdul Rahman Abdul Aziz al Sheikh

労働社会問題相 Muhammad Ali al Fayez

公共事業住宅相 Pr. Miteb ibn Abdul Aziz al Saud

都市村落相 Ibrahim ibn Abdullah al Anqari

運輸相 Hussein Ibrahim al Mansouri

保健相 Faisal ibn Abdul Aziz al Hujailan

教育相 Abdul Aziz Abdullah al Khuwaiter

高等教育相 Hasan ibn Abdullah al Sheikh

司法相 Ibrahim ibn Mohammad ibn Ibrahim al Sheikh

巡礼宗教財務相 Abdul Wahhab Ahmad Abdul Wasi

国務相 Sh. Mohammad Ibrahim Masoud

国務相 Dr. Mohammad Abdul Latif al Melhim

国務相 Abdullah Mohammad al Omran

国務相 Omar Abdul Qader Faqih

閣僚級待遇

マッカ州知事 Pr. Abdul Majid ibn Abdul Aziz al Saud

中央情報局長 Pr. Turki ibn Faisal ibn Abdul Aziz al Saud

国防航空省顧問 Sh. Othman al Humaid

## 3 その他の主要役職

国防航空省副大臣 Pr. Abdul-Rahman ibn Abdul Aziz al Saud

内務相副大臣 Pr. Ahmad ibn Abdul Aziz al Saud

OPEC 担当石油次官 Sh. Abdul Aziz al Abdullah al Turki

政策担当外務次官 Sh. Abdul Rahman Mansouri

行政担当外務次官 Sh. Abdul Aziz al Thaniyan

経済担当外務次官 Sh. Abdullah Mohammad Alireza

SAMA (サウジアラビア通貨基金)

総裁 Hamid Saud al Sayari

駐米大使 Pr. Bandar ibn Sultan ibn Abdul Aziz al Saud

青年福祉局長 Pr. Faisal ibn Fahd ibn Abdul Aziz al Saud

イスラム指導, 司法, 総合委員長(イスラム最高長老)  
 Sheikh Abdul Aziz ibn Baz

## 四 国軍、国家警備隊等

### 〈国 軍〉

参謀総長 Muhammad Saleh al Hammad 大将  
副参謀総長 Abdul Mohsin al Omran 大将  
陸軍総司令官 Youssef Abdul Rahman al Rashid  
中將

空軍総司令官 Abdullah al-Hamadan 少将

海軍総司令官 Muhammad Bakrati 准将

### 〈国家警備隊〉

総司令官 Abdullah 皇太子  
副司令官 Pr. Badr ibn Abdul Aziz al Saud  
副司令官補佐 Sh. Abdul Aziz Abdul Mohsen al  
Tuweijiri

### 〈そ の 他〉

#### 治安維持(警察)

総司令官 Abdullah ibn Abdul Rahman al  
Sheikh

#### 国境沿岸警備隊

総司令官 Mohammad ibn Hilal 少将

## 五 州知事

マ ッ カ Pr. Majid ibn Abdul Aziz al Saud  
リ ヤ ド Pr. Salman ibn Abdul Aziz al Saud  
マ デ ィ ナ Pr. Abdul Majid ibn Abdul Aziz al  
Saud  
ハ イ ル Pr. Miqren ibn Abdul Aziz al Saud  
東 部 Pr. Muhammad ibn Fahd ibn Abdul  
Aziz al Saud(3月2日任命)  
北 部 辺 境 Pr. Abdullah ibn Abdul Aziz ibn  
Musaed al Saud  
カ シ ム Pr. Abdul Illah ibn Abdul Aziz al  
Saud  
ク ラ イ ヤ ト Pr. Sultan ibn Abdul Aziz al Sudairi  
ジ ャ ウ フ Pr. Abdul-Rahman ibn Ahmad al  
Sudairi  
北 部 Pr. Mamdouh ibn Abdul Aziz al Saud  
ナ ジ ュ ラ ン Fahd ibn Khalid al Sudairi  
ジ ザ ン Sh. Muhammad al Sudairi  
パ ハ Ibrahim ibn Abdul Aziz ibn Ibrahim  
ア シ ー ル Pr. Khalid ibn Faisal ibn Abdul Aziz  
al Saud

## 六 人事異動(公布の順)

東 部 州 知 事 Pr. Muhammad ibn Fahd ibn Abdul  
Aziz(3月2日, 前内務次官補)

国 軍 Muhammad ibn Abdullah al Tuwaian  
少将(6月11日, 前中佐)  
Muhammad ibn Rajah al Harbi 少将  
(6月11日, 前中佐)

湾岸標準化機構事務局長 Khaleed Kharaf(7月5日)

国 家 警 備 隊 Awdad ibn Quwaihi al Shamri 少将  
(8月11日, 前少佐)

Owaid ibn Ali al Quari 少将(8月11  
日, 前少佐)

Sultan ibn Khaleel ibn Omar al  
Qahatani 大佐(8月11日, 前中佐)

Ali ibn Muhammad al Qaiyeh 准将  
(8月17日, 前大佐)

Rahil ibn al Ais al Otaibi 准将(8月  
17日, 前大佐)

SAMA 総 裁 Hamid Saud al Sayari(前総裁代行,  
10月1日)

#### 王立工業化委員

会事務局長 Pr. Ibn Turki ibn Faisal Abdullah  
(12月9日)

国 軍 Fahd Radifan al Otaibi 少将(8月14  
日付, 前准将)

Abdullah Jerbakbi al Olaimi 准将(7  
月18日付, 前大佐)

Amin Hussein Zakzuk 少将(9月17  
日付, 前准将)

Abdul Rahman Abdul al Jaser 少将  
(9月17日付, 前准将)

Saleh Fales al Zahrani 准將軍医(8  
月17日付, 前大佐)

# 主要統計 サウジアラビア 1985年

645

第1表 国内総生産（部門別名目価格）（会計年度7月—6月）

（単位：100万 S R）

	1979/80	1980/81	1981/82	1982/83	1983/84*
国内総生産（政府サービス除く）	383,589	517,994	530,243	411,797	377,797
1. 農 林 漁 業	4,648	5,572	6,740	8,725	9,771
2. 鉱 油・天 然 ガ 斯 他	237,218 1,361	340,997 1,696	323,328 1,969	192,874 1,785	148,845 1,740
3. 製 造 業	12,828	18,027	13,260	13,287	14,980
石 油 の 精 製 他	6,467	7,721	9,124	10,685	12,395
4. 電 気・ガ ス・水 道	271	339	-429	-850	-1,018
5. 建 設 業	43,108	50,348	58,181	54,903	50,252
6. 卸売, 小売, レストラン, ホテル	17,760	21,986	28,064	28,088	29,548
7. 運 輸, 倉 庫, 通 信 業	15,749	17,123	19,871	21,489	23,080
8. 金 融, 保 険, 不 動 産 他	10,962	11,973	12,562	13,312	13,712
不 動 産 他	7,853	10,352	13,300	16,871	18,932
9. 社 会, 個 人 サ ー ビ ス	5,260	5,504	6,813	8,408	9,483
10. 金融サービスチャージ(控除)	-3,279	-3,607	-3,968	-4,364	-4,406
小 計	360,206	488,089	485,815	365,213	327,314
政 府 サ ー ビ ス	23,384	29,905	36,361	46,585	50,654
G D P 生 産 者 価 格	383,590	517,994	522,176	417,798	377,968
輸 入 税	2,217	2,595	2,542	2,650	3,624
G D P 購 入 者 価 格	385,807	520,589	524,718	415,230	381,592
実 質 G D P (1979/80 価格)	49,053	52,971	53,886	48,030	48,473

(注) \*暫定値。 (出所) SAMA, Annual Report, 1404 (1984)年版。

第2表 国際収支（暦年）

（単位：100万 S R）

	1981	1982	1983	1984 <sup>1)</sup>
貿 易 収 支 (fob)	274,761	132,480	43,064	31,113
a) 石 油 輸 出 <sup>2)</sup>	357,320	249,978	15,426	127,338
b) そ の 他 輸 出 <sup>3)</sup>	541	583	3,561	4,400
c) 輸 入	-101,100	-118,081	-114,760	100,625
サ ー ビ ス ・ 移 転 収 入	-145,035	-136,247	-99,339	115,814
受 取 入	54,916	64,966	73,576	62,070
a) 投 資 収 入	37,059	48,196	54,819	47,049
b) バ ン カ ー 油	1,996	1,124	620	511
c) そ の 他	15,861	15,646	18,137	14,510
支 払 い	-119,951	-201,213	-172,915	-177,884
a) 運 賃 ・ 保 険	-18,198	-24,254	-20,657	-18,112
b) 石 油 部 門 投 資 収 入	-32,470	-21,291	-14,818	-12,682
c) そ の 他 民 間 サ ー ビ ス	-38,747	-38,956	-32,788	-32,549
d) そ の 他 政 府 サ ー ビ ス	-96,671	-101,855	-86,566	-95,918
e) 民 間 移 転	-13,865	-17,857	-18,086	-18,623
経 常 収 支	129,726	-3,767	-56,275	-84,701
資 本 移 動 ・ 準 備 金	-129,726	3,767	56,275	84,701
a) 石 油 部 門 資 本 移 転 (純)	21,811	38,170	17,409	18,419
b) そ の 他 民 間 資 本 <sup>4)</sup> (純)	13,013	16,763	14,131	15,076
c) 商 業 銀 行 (純)	-21,215	-10,738	-604	-3,709
d) 公 的 資 本 と 準 備 金 <sup>5)</sup>	-143,335	-40,433	25,339	54,915

(注) 1) 暫定値。2) バンカー油を除く。3) 再輸出を除く。4) 国内直接投資, 短期民間資本, 誤差脱漏。5) SAMA の外国資産 (金, 外貨), 投資(途上国への借款含む)。

(出所) 第1表に同じ。

第3表 貿易内訳 (暦年)

(単位: 100万 S R)

	1979	1980	1981	1982	1983	1984
全 輸 出	213, 183	362, 886	405, 481	271, 090	157, 824	131, 738
全 輸 入	82, 223	100, 350	119, 298	139, 335	114, 760	100, 625
動物・酪農品	2, 840	4, 121	4, 874	4, 980	4, 975	4, 696
植物製品	3, 906	5, 345	7, 144	8, 276	6, 588	8, 859
加工食品, 飲料, 酢, タバコ	3, 379	4, 172	4, 854	4, 361	4, 597	4, 634
砂	238	728	1, 237	626	n. a.	n. a.
小麦	590	703	286	162	n. a.	n. a.
鉱業製品	2, 249	3, 155	3, 063	3, 043	3, 475	2, 913
セメント	1, 436	2, 138	1, 806	1, 920	n. a.	n. a.
化学工業製品	2, 667	3, 475	4, 121	4, 881	5, 081	5, 245
人造プラスチック, ゴム	2, 094	2, 795	2, 911	3, 397	3, 501	3, 468
木材・木材製品	2, 332	2, 597	2, 650	2, 711	2, 799	2, 095
うち木材のみ	2, 280	2, 232	2, 466	2, 615	n. a.	n. a.
パルプ・紙	940	1, 107	1, 353	1, 536	1, 600	1, 605
繊維・繊維製品	4, 996	6, 751	7, 294	8, 251	9, 056	8, 823
ガラス・ガラス製品	2, 680	3, 421	3, 515	3, 487	4, 160	3, 669
真珠・宝石	1, 304	2, 397	3, 478	3, 827	4, 205	3, 605
卑金属・卑金属製品	12, 730	14, 611	17, 443	20, 719	19, 101	14, 183
機械	22, 552	24, 534	30, 323	35, 536	36, 120	28, 409
運輸機械	10, 992	13, 924	17, 242	24, 034	19, 087	15, 916
うち自動車の	6, 940	9, 535	9, 670	13, 842	n. a.	n. a.
光学・医療・精密機器	2, 903	3, 616	4, 313	4, 666	5, 279	5, 014
兵器	18	61	29	8	13	23
雑製品	2, 340	2, 772	2, 979	3, 553	3, 613	3, 355
その他	1, 301	1, 676	1, 712	2, 072	—	—

(出所) 第1表に同じ。

第4表 国家予算

(単位: 100万 S R)

	1983/84			1984/85			1985/86		
	金額	構成比	対前年度比 (%)	金額	構成比	対前年度比 (%)	金額	構成比	対前年度比 (%)
人材育成	27, 791	10.7	-18.8	30, 460	11.7	9.6	23, 951	12.0	-21.4
運輸・通信	24, 950	9.6	-23.3	23, 630	9.1	-5.3	16, 500	8.3	-30.2
経済資源開発	13, 209	5.1	-40.1	17, 560	6.8	32.9	14, 434	7.2	-17.8
保健・社会サービス	13, 591	5.2	-20.1	18, 080	7.0	33.0	14, 830	7.4	-18.0
インフラストラクチャー	9, 583	3.7	-18.1	9, 830	3.8	2.6	6, 670	3.3	-32.1
地方行政	19, 070	7.3	-27.3	17, 460	6.7	-8.4	11, 890	5.9	-31.9
国防・治安	75, 733	29.1	-18.5	79, 900	30.7	5.5	64, 084	32.0	-19.8
一般行政・その他	47, 053	18.1	5.5	36, 555	14.1	-22.3	29, 998	15.0	-17.9
特別融資制度	20, 000	7.7	-14.5	16, 000	6.2	-20.0	6, 300	3.2	-60.6
国内補助金	9, 020	3.5	-19.2	10, 525	4.0	16.7	8, 343	4.2	-20.7
歳出計 (予算)	260, 000	100.0	-6.6	260, 000	100.0	0	200, 000	100.0	-23.1
歳出計 (実績)	223, 000			214, 800					
歳入計 (予算)	225, 000			214, 100			200, 000		
うち石油収入	165, 000			151, 000			154, 250		
歳入計 (実績)	190, 800			169, 600					
うち石油収入	128, 000								
財政収支 (予算)	-35, 000			-45, 900			0		

(出所) SAMA, Statistical Summary, 1405 (1985)年版。